

# ～エルサルバドル 生活・柔道指導報告～

第一号

2018年12月10日



青年海外協力隊 2018年度 2次隊  
エルサルバドル派遣 石崎 信太郎  
(El Salvador) ISHIZAKI SHINTARO

## ～はじめに～

皆さん初めまして。青年海外協力隊として中央アメリカにあるエルサルバドル共和国に派遣されています石崎信太郎です。中米で唯一カリブ海に面していない国で覚えてください。

この報告書を通してエルサルバドルの生活や柔道指導の内容、日本との違いを発信していこうと思います。

まず自己紹介と青年海外協力隊を志望した経緯から書いていこうと思います。

(活動報告は3ページ目途中から始まります。)

私は今年の3月に千葉県勝浦市にある国際武道大学を卒業し、新卒で青年海外協力隊に応募しました。青年海外協力隊 (JICA ボランティア) 読み方【ジャイカ】



※スペイン語では【ヒカ】とは日本政府が行う政府開発援助の一環で、外務省所管の独立行政法人国際協力機構が実施する海外ボランティア派遣制度です。

ボランティアの職種は、教育やスポーツ、農業、IT、医療関係など幅広く行われています。

私はこの国にスポーツ分野の柔道指導員として派遣されています。

(派遣期間 2018年10月1日～ 2020年9月30日迄)

活動の目的は、青少年の非行防止と、現地の強化選手に対する技術指導です。

エルサルバドルは2018年11月5日にビジネスニュースサイトの Business Insider JAPAN で「世界で最も危険な国ワースト20」で見事第一位に選ばれた国です。(2018年12月8日現在) ※1

そんな国に私は自ら希望を出して、運よく？この国に来ることが出来ました。

私がこの国を希望した理由は、昨年8月にNPO法人柔道教育ソリダリティーの事業の「コーチングセミナー」で訪れたことがきっかけです。

その時私は東海大学の師範である光本健次師範が行うコーチングセミナーのアシスタントとしてこの国に来ました。セミナーの内容は柔道の安全な指導方法や基礎の指導法、遊具を使った子供を楽しませる指導、形、審判法などの柔道指導者として必要最低限の知識を指導するセミナーでした。



↑ 昨年のセミナーの様子。

上の写真は昨年のセミナーの様子で、初心者を対象にしたボールを使った大外刈の打込みのイメージを習得するための指導法です。このような様々な指導法を指導しました。

セミナーは1週間行われ、その中で一度だけ現地の子供たちと柔道をする機会がありました。その時に私は「この国に来て柔道指導がしたい」と強く思ったのです。

まず私が海外に行って柔道指導をしたいと思った理由は大きく分けて、「海外での柔道指導に携わってみたい」ということと「私自身が直接的に誰か困っている人の役に立つ仕事がしたい」と思っていた事の二つです。

私の大学は国際武道大学という名前だけあり、周りには留学生が大勢いました。

その中で私は学生の頃から海外での柔道指

導に携わってみたいという考えを持っていたということです。

一番のきっかけは、大学三年生の時に「全日本柔道連盟の学生ボランティア海外派遣事業」でインドネシア、バリ島に柔道指導に行ったことがきっかけです。

就職活動をそろそろ始めなければいけないというときに気付いたことは、私は特に柔道以外にとりえはなく、成績もとても優秀とは言えない学生だということです。

そんな中で私の唯一のとりえであった今までやってきた柔道を通して人の役に立てる仕事（厳密にはボランティアであるが）と出会えたのが、私の人生二度目の海外柔道指導の場である「エルサルバドル」でした。

昨年この国に来た時に JICA スタッフの方ともお話しさせていただく機会があり、エルサルバドルの事情をお聞きする事ができました。

その時のお話では、この国の問題は青少年の犯罪率の高さだということで、それを防ぎたいとの事でした。

この国は少し調べていただければすぐに出てきますが殺人率が半端じゃないです。

（現地ではスペイン語でパンディージャ【意味・不良グループ】と呼ばれるものによる）

日本のそんじょそこらの不良グループとはわけが違います。

彼らは貧困層の子供たちを仲間に誘い殺人をさせます。人を殺さなければ自分が殺される。

そんな中私たちの計画はスポーツの力を使って子供たちが非行に走る時間を無くすという計画です。

そもそもエルサルバドルの学校は日本の学校と違い授業が午前中しかありません。

つまり貧困層ではなく普通に学校に通って

いる子供たちも時間を持て余しており非行に走る十分な時間があるということです。

そういう意味で青少年の非行防止、健全育成をするためにスポーツをすることは、エルサルバドルの将来の治安を少しでも改善したり、子供たちの命を間接的に助ける活動でもあるのです。

この「命を助ける」ということこそ私が青年海外協力隊の中でも強く「エルサルバドル」に行きたいと思うようになったきっかけです。

好きなことをして誰かの役に立つことが出来、夢を与え、命まで助けられる可能性があるということに魅力を感じたからです。大きなことはできなくても小さなことを積み重ねて少しでもいい未来になるようになればいいなという想いで活動しています。

そしてこの国の柔道のレベルは決して高くはありません。

私はこの国で、ナショナルチームの指導をメインに週に何度か別の都市に赴き巡回指導を行っています。

ナショナルチームの選手の強さは日本の高校2、3年生くらいだと感じます。

私は現役時代目立った選手ではなかったですが、このレベルなら私でも十分に指導が出来ると確信できたのもこの国を選んだ理由の一つです。

さらに大きな問題が一つあり、エルサルバドルの柔道人口は約2000人といわれています。

日本から遠く離れた九州の半分ほどの小さな国で約2000人が柔道をしているということも驚きですが、何より驚いたことが「左組」が圧倒的に少ないということです。

※（柔道の組み手には左右がある）

柔道連盟によると「左組」の数は柔道人口の

一割にも満たないのだとか、、、

私が指導している道場でも生徒数20名のうち「左組」は1人です。0.5割です。

私は左組なのですが、彼らは私と乱取りをするとき、組み方、さばき方、技の入り方がわからないから、左組で組んできたり、技を全く掛けてこなかったりで練習になりません。

左組に対応できるようにすることも大きな課題の一つです。

日本の左組の皆さんぜひエルサルバドルに来てください。

## ～活動～

内容はやっと活動に入ります。私はこの国に到着してすでに約二か月半がたちました。

初めの一か月はスチトトという町で語学を学び活動、生活に必要な知識を重点的に学びました。

そしてそのスチトト市で10月27日、「日本文化紹介」というものを JICA が主催して行いました。

そこで柔道連盟と生徒たち協力してもらい、柔道のモンストレーションを行いました。



その際に使用させていただいた畳は今年8月にNPO 法人柔道教育ソリダリティーから送って

いただいた畳を使用しました。



これらの畳はサン・サルバドル市、サンマルティン道場、サンタテクラ市、ソル・ナシエンテスポーツ庁で使用されています。



それらの道場はすべて私の活動で訪れる道場ですので、有効に活用し大切にに使わせていただきます。

多くの方の支えがあり、用具に困ることなく円滑に柔道指導に励むことが出来る環境を作ってください心から感謝申し上げます。

約1か月半の活動を終えて私はいくつかエルサルバドル柔道界の課題をいくつか見つけることが出来ました。

その中でも致命的なものは、選手たちが基礎を理解していないということです。

この国では、というより今まで私の海外柔道指導経験をした国（約7カ国）では日本のような「講道館柔道少年規定」のようなルールはありません。柔道を始めた7歳の子であってもいきなり国際ルールで試合をします。

私がコスタリカに行った時の経験ですが、大使杯という大会で、「緑帯」以下の部で子供のけが人が続出していました。

原因は体もできていない、受け身の取方もうまくない小学生くらいの子たちが背中を持ちたり、首を抱えたり関節を取りあったりして投げ合っていた所にあると考えます。

そんな試合を見るのはとても新鮮でしたが、見ているのがとても怖かったことを覚えています。

おそらくそれらの理由でそのまま「釣手」「引手」の使い方、つかむ場所も知らないまま大きくなれば今のこの現状も仕方ないと感じます。

私の道場 20 人を対象にした得意技のアンケートでも、大腰、大車、隅返、などの襟を持たない技が多数であり、背負投や内股、大外刈、払腰といった襟をもって掛ける技はごく小数でした。

11月10日、サンマルティン道場で行われたコスタリカとニカラグアとの国際大会で、私が彼らの試合を始めて見たときほぼ全員が初めから奥襟を持ちに行き、引手は相手の上腕三頭筋あたりを持ちに行くかなり「攻め」な組手の選手がほとんどでした、その結果相手の効果のない「掛け逃げ」に巻かれて行って負ける選手が多く見られました。

そして次の日の練習の時に襟と引手を正しく持つことを選手とコーチに納得してもらうまで説得し続け、練習で奥襟と背中を持つことを禁止しました。

子供のころから背中を持っている彼らからしたら、少しの間背中を持つことを禁止しても競技力に対する影響は少ないであろうと、むしろ先のことを考えるとメリットであると考えたからです。

(科学的な根拠はありません。どなたかご教授していただければ幸いです)

私の経験からするとやはり「釣手」の使い方を学ばないと技や組手は上達しません。

そして迎えた約一か月後の首都サン・サルバドルで行われた 15 歳以上の全国大会。たかが一か月ですが、選手たちの成長はどれく

らいかと楽しみに迎えました。

私は試合前選手たちに「失敗してもいいから最初の組み手は必ず襟と、袖の前腕部をもってから始めなさい」とだけ言って選手を送り出しました。

一か月の練習の成果か、彼らがしっかり組手を意識して試合をしてくれたのか、ほぼすべての選手が教えを守りしっかりと組んで柔道をしていました。

結果前回の大会のような勝てる相手に負けることがなく出場した男子 10 名全員が入賞することが出来ました。



結果は以下の通りです。

- 55kg 級 3 位
- 60kg 級 1 位、2 位、
- 66kg 級 1 位、2 位、3 位
- 73 kg 級 2 位、3 位
- 90kg 級 2 位、3 位            計 10 名

結果だけ見ればいい結果に見えますが、全国大会とはいえ出場者の数は 40 名弱であり、ほとんどが入賞できる試合だということも事実です。

そして前回からの大会から改善されたことも多くありましたが、また新たな課題も多く発見されました。一つ一つクリアしていこうと思います

これからの目標はまず中南米で一番になること。次に日本に連れて行っても恥ずかしくない強さにすることです。

試合後、私の道場で一番意識の高い 60 kg 級で優勝した選手(前回大会決勝戦で白帯の選手の掛け逃げに巻かれて負けた選手)に「いい組手ができていたし、得意技が決まってよかったねと」話しかけると「プロフェ【スペイン語で先生って意味】の言う通りの組み手をしたら相手に投げられる気がなくて、思い切って技を掛けられたよ。」といわれた時、とてもうれしく思ったと同時に、とてもやりがいのある仕事だとも再確認しました。

私の活動は二年間あるので小さなことからコツコツ選手の為、国のためになるように指導していきたいです。

これから更に本格的に活動が始まり各地方を回る巡回指導等も増えていくと思われます。

私がこれから活動していくうえで一番大切にしていきたいことは柔道の教育的側面を利用した青少年の非行防止です。

それに関しては柔道連盟、JICA スタッフの力をお借りしてしっかりやっっていこうと考えます。

特に来年から始まる定期の巡回指導では、「正しく柔道を伝える」、「日本の文化の継承」、「柔道人口の増加」、「青少年の非行防止」など多くの目的を持って活動していきます。

その前に私自身がまだまだ多くのことを学ぶ必要があるとも考えます。教えに行くつもりでも教えられることの方が多くあり、日々勉強の毎日です。

この二年間は「未来のエルサルバドルの平和につながる柔道指導」をスローガンにして活動していこうと思います。

日本で柔道をする目的とエルサルバドルで柔道をする目的、教える目的は全く変わってきます。

それらのことを考慮したうえで周りの温度にあわせ、いい国際交流をしていきたい思います。

## 最後に

最後まで読んでいただきありがとうございます。

この報告書は私が少しでもエルサルバドルの事を日本の皆さんに知ってもらう為、(ここ数年エルサルバドルには、トランジット、エルサルバドルの大使館、JICA スタッフ、ボランティア、バックパッカーを除いて日本人は来ていないそうです(笑))

日本でお世話になった多くの方に報告をする為、私自身の記録用の為、に書くことを決めました。

ですので、毎月というよりは大きな活動、または変化があるたびに書いていこうと思います。2か月に1回、3か月に1回、または1か月に2回などと回数にばらつきが出ると思われますがご了承ください。

次回号は現在予定されている「形セミナー」と来年から始まる「巡回指導」をメインに、さらに巡回指導でいろいろな場所を訪れることが出来ますので、エルサルバドルの国の雰囲気な

どもお伝えできればいいなと考えています。

改めて最後まで読んでいただき誠にありがとうございました。

ちなみに私のインスタグラム(青年海外協力隊用)の方では日常の小さなことも発信していきますのでぜひそちらの方のリクエストもよろしくをお願いします。

下に URL を載せておきます。 ※ 2

<https://www.google.com/sv/amp/s/www.businesinsider.jp/amp/post-178711> ※ 1

ビジネスインサイダー ジャパン

[https://www.instagram.com/2018\\_2\\_el\\_salvador/](https://www.instagram.com/2018_2_el_salvador/) ※ 2 インスタグラム



**Adios! 【アディオス・さようなら】**

青年海外協力隊 エルサルバドル派遣

2018年度 2次隊 石崎信太郎